

別記第3号様式

平成16年度事後評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	2	研究課題名	旭川地方に伝承されるアイヌの座り歌・踊り歌についての調査研究			
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析
共同研究機関 (協力機関)		研究期間	11年度～15年度			
		全所要額 (千円)	657 (一財 657)			
研究の概要						
○ 研究背景 ・アイヌの「座り歌」「踊り歌」は、主に儀礼の場で行われ地域社会を中心として伝承されてきた。これらは、個人的な場面で一人で歌う歌に比べると歌詞や旋律が比較的固定的であるので、時を経て曲の識別が容易であり、演唱の変化についても単なる個人差ではなく、世代的な差・特徴として捉えることができる。これまでアイヌの音楽について網羅的に採録されているのはNHK札幌放送局による1961年から1962年にかけての「アイヌ伝統音楽」であるが、近年の伝承と比べると、歌い方の変化、演奏可能な曲目の減少など、十分な情報を得られにくかった。 ○ 研究目的 ・旭川地方におけるアイヌの「座り歌」「踊り歌」について一曲毎に情報を整理し、研究や伝承活動に役立つ基礎資料、参考資料を作成する。 ○ 研究内容 ・伝承曲数が現在最も多く幅広い年齢層の伝承者が存在する旭川地方の「座り歌」「踊り歌」を対象に、歌詞、旋律、歌い方などについて現在の伝承者らの伝承内容を聴取りしまとめたほか、現在伝承されていないもの、既存の資料に記録されていないものなどを明確にした。 ○ 研究実績 平成10年度 予備調査 平成11～12年度 40代～90代の伝承者より聴取り調査(約30曲) 平成13～14年度 70代～90代の伝承者より聴取り調査(約40曲、11～12年度の採録曲と重複あり) 平成15年度 70代の伝承者より補足調査、得られたデータの整理作業 直近の研究課題評価結果 平成14年度 中間評価 【自己評価】 A・B・C 【総合評価】 A・B・C						
研究の成果						
○ 具体的な成果及び研究目標の達成度 ・現在の旭川に伝わっている「座り歌(ウコウク)」「踊り歌(ウボボ)」約60曲を採録し、現在のレパートリーの実態や演奏様式を把握することができた。 ・調査記録の内容を整理し、それらを曲ごとにまとめる作業も概ね当初の計画どおりすすめることができた。 ○ 研究期間・経費の妥当性 ・期間、経費とも概ね妥当であった。 (○ 他機関との連携) 目標の達成度 (a) b・c 期間の妥当性 (a) b・c 経費の妥当性 (a) b・c 成果の有益性 (a) b・c ○ 新たな展開に向けた課題 ・同様の調査を他の地域に広げ、それぞれの地域における音楽の伝承内容や現状を把握し資料化する。 また、そのようにして蓄積されていく各地の音楽の情報ないし資料を、地域間の比較研究の基礎資料とする。						
成果の活用策						
○ 活用される分野 ・本研究課題の成果は、アイヌ音楽やアイヌ文化の研究において、またアイヌ文化の伝承や教育の場において、基礎的資料ないし参考資料として活用される可能性がある。 ○ 具体的な活用方策 ・本研究において得られた資料及びその報告内容は、既存の資料には見られない情報を多く含んでおり、今後のアイヌ音楽の研究資料として、また、地域における伝承活動や教育活動のための参考資料として、活用することができる。 ○ 成果の普及 ・本研究において採録した音声資料の内容をまとめた報告書及び座り歌・踊り歌を集めた音声資料(CD)を、平成16年度中に刊行予定である。 活用の可能性 (a) b・c						
【自己評価】	【説明】					
A・B・C	旭川地方に伝わる「座り歌・踊り歌」の演奏様式などを把握し、調査記録をまとめた本研究は、今後その手法を他地域の調査に応用するほか、地域間の比較研究の基礎資料となる可能性の高い有意義な研究であった。 (追跡評価の必要性 有・無)					
【総合評価】	【意見】					
A・B・C	アイヌ音楽を音声資料にまとめ、一曲ごとに情報を整理したことは、アイヌ文化の伝承及び研究の促進に役立つものであり、既存の資料にはない情報も収集するなど一定の成果が得られている。 なお、研究成果については今年度中に音声資料等に収めることとしているため、追跡評価は実施しない。 (追跡評価の必要性 有・無)					

(A) 目標を達成し、十分な研究成果が得られている
 (B) 目標を概ね達成し、一定の研究成果が得られている
 (C) 目標の達成度が低く、十分な研究成果が得られていない

(a) 極めて高い、適切である
 (b) 高い、概ね適切である
 (c) 低い、改善の余地がある